

音の新世界

塚田 實

三月に人間ドックを受けた。昨年は右の高音が聴きにくいと言われたが、今年は両耳のすべての音域で聴きにくくなっているとの診断だった。そう言えば家庭内での会話も何回か聞き直すことが多くなったし、テレビの音量も上げすぎと言われていた。体温計で体温を測っても、終わりましたのピッピッの音がまったく聞こえない。「昨年はい内障の手術をして、今度は耳か。もう補聴器を作った方が良いかな」

お店を訪れて、何回も補聴器のシステムの説明を伺うと、意外にハイテク化されている。問題は値段だ。ハイテク化されている分だけ高い。それでも思い切って注文した。

初めて補聴器をつけたときは驚きだった。パソコンを使って、私の耳の聞こえ具合から、各音域での細かい調整がなされる。店員の方は、「聞こえ具合は少しずつ変化してくるので、これから六ヶ月かけて徐々に調整してゆきましょう」と言う。また自分のiPhoneにアプリをインストールすると、iPhoneからも様々な調整が出来るかと教えてくれた。

家に帰ると、その日は雨で水が葉に落ち、水たまりにしたたり落ちる音もよく聞こえる。花に水遣りをする時、様々な水の流れが新鮮に響く。昨年白内障の手術をした後、空はこんなに明るいのかと感激した。今度は音の世界が大きく広がり、CDを聴いても、ヴァイオリンの高音など鮮やかに響くので、CDを聴く楽しみが増えた。

暫く使っていると、不思議なことがあった。歩いていると靴音が少し気になったが、暫くするとあまり気にならなくなった。店員さんの話では、「脳は常に学習していて、反応すべき音を選別している」そうだ。

家族との対話はスムーズになった。テレビの音量も随分下げた。補聴器を装着していることがあまり目立たないので、今では外出するときも、室内にいるときでも一日中つけている。

目も耳も加齢により劣化するのは仕方がない。医学とテクノロジーの進化を享受して、加齢と仲良く過ごしてゆこう。